



国立大学法人

愛知教育大学

AICHI UNIVERSITY OF EDUCATION

愛知教育大学 未来共創プラン



『未来共創プラン』への思い

愛知教育大学は、明治6（1873）年に愛知県養成学校として設立され、以来一貫して有為な教員の養成を第一の目的とし、教育研究の充実を図って参りました。2023年には一つの節目となる創基150年を迎えます。

明治の先人たちは、教育を新しい国づくりの礎と考え、近代的な学校制度を整えました。その後、大正、昭和、平成、令和と時代は移り、世界は加速度的に変化し続けていますが、国づくりの根幹は、今も変わらず人づくりです。他方、新しい時代を切り拓くには、高邁な理想を共に抱く仲間、柔軟で斬新なアイデア、協働してやり遂げる強い意志が必要です。

こうした考えの下、これまでに培ってきた教員養成の「知の拠点」としての役割を果たし続けるため、そして本学の取組を未来へとつなぐために、「愛知教育大学中長期ビジョン・目標・戦略」を策定しました。作成に際しては、様々なステークホルダーの皆様から広くご意見をいただき、ブラッシュアップを重ねました。その間、大変ありがたいことに、「大学をよりよくすることに参加したい」、「学校や地域社会、教育委員会とのつながりを大切にしてほしい」、「ぜひ、一緒にやりましょう」といった力強い後押しを数多くいただきました。

学長就任時に私は本学のキャッチフレーズとして、「子どもの声が聞こえるキャンパス」、「地域から頼られる大学」を掲げました。そこに謳う理想の姿を実現すべく、「愛知教育大学中長期ビジョン・目標・戦略」に「共に未来の教育を創る」という思いを込め、「未来共創プラン」と名付けました。このプランに沿って、本学を、未来を創る子どもたちのための教育大学として、学生だけでなく子どもたちの好奇心やチャレンジ精神も育むことのできる場としていく所存です。

「未来共創プラン」には3つの目標と9つの戦略があります。皆様と共に、着実に実行して参りたいと思います。引き続き、ご支援、ご協力のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

2021年3月

愛知教育大学長

野田 敦 敬



愛知教育大学 未来共創プラン

愛知教育大学は、2013年に「広域拠点型の教員養成大学」として、強み・特色・社会的役割（ミッション）を再定義しました。これを受けて、2016年に「将来ビジョン」を策定し、教職大学院を主軸に教員養成を高度化し、学部段階から実践力の育成に力を入れるとともに、学び続ける教員を支援する研修を充実させてきました。

この度、未来の社会を創る子どもたちを育てる教員養成系大学として、これからの本学の存在意義や役割を整理するために、学内外の関係者の皆様方と意見交換を積み重ね、本学が目指す姿を描きました。この新たなビジョンを実現するために目標と戦略を定め、2021年3月に「未来共創プラン」として策定・公表しました。



「未来共創プラン」の核となるビジョンと
3つの目標・9つの戦略

I ビジョン

愛知教育大学は、
子どもと共に、学生と共に、社会と共に、附属学校園と共に、
未来の教育を創ります。

『未来の教育』を考える上では、これからの未来を担う子どもたちをはじめとした様々なステークホルダーの声を受けとめ、**開かれた大学**として共に前進していくことが不可欠であると考え、ビジョンにその方向性を位置付けました。

5つの視点

1. 子どもを大切にする
2. 学生を主体的な存在として尊重する
3. 地域社会、学校、教育委員会との
つながりを大切にする
4. 附属学校園との連携を一層強化する
5. 共によりよい教育を創る



Ⅱ 3つの目標と9つの戦略

愛知教育大学のビジョンの実現に向けて、重点的に取り組む道筋を3つの目標として掲げ、目標を達成するために具体的な行動の方針として9つの戦略を立てました。

目標 1 子どもや学生、社会との対話や協働を通して、現代的教育課題の解決に貢献し、より質の高い教員及び教育支援専門職の養成を実現します。

- 戦略
- ① 大学及びその周辺地域を「学び」と「遊び」を一体化できるエリアとして、**実践フィールドと実践プログラム**を提供します。
 - ② 教育リソースデータベースを設置し、教育現場の課題解決に貢献する**教育のプラットフォーム**を構築します。
 - ③ よりよい教育の未来につながる**教職の魅力**を共に創り出し、発信します。
 - ④ 協定校を始めとする海外の教育機関との連携を密にして、**グローバル化に対応したプログラム**を学部と大学院で整備します。

いつの時代も子どもや教育現場に寄り添う姿勢が求められる教員養成系大学にとって、キャンパスには活用の余地がまだ多分にあります。そこで、本学キャンパスを今まで以上に本学の教育や現代的教育課題の解決に活用するため、学校等が活用できる実践フィールドとし、そこで実践プログラムを提供します。キャンパスを日常的に子どもが集う場とすることで、地域と子どもに近い教員養成、教育支援専門職養成を目指します。

これからの教員養成系大学は、その社会的役割を果たすため、今まで以上に地域、学校と三位一体となる必要があります。そこで、学内外の多様で豊富な教育リソースをつなげ、効果的に集約・展開できるような体制を構築します。また、教育の未来を持続的に発展させるために、教職の魅力を社会と共に創り、発信するファシリテーターとしての役割を果たします。

さらには、現在のグローバル化社会を考えると、国内だけでなく、国外の教育機関とのつながりを密にすることも欠かせません。それにより、異なる文化との共存、互いの違いを認める多様性とコミュニケーション力に長けた教員の養成を促進します。不易流行の精神で、本学は社会と共に教育の未来を共創します。

目標 2 大学と附属学校園との連携強化を図ることで、より質の高い教員研修を実現します。

- 戦略
- ⑤ 附属学校園と教職大学院との連携を強化し、**教育の実践的研究拠点**を構築します。
 - ⑥ 教育委員会や教育現場等との緊密な連携を通して、附属学校園が今後の**公立学校等のモデルとなる実証研究**に取り組めます。

附属学校園には、学生の教育実習の受け入れのみならず、教育大学の附属機関として、大学における園児、児童、生徒の教育等に関する研究に対して、これまで多大なる協力を得てきました。また、各附属学校園は独自の実践的研究主題を掲げ、赴任教員の研鑽の場となるとともに、公開授

業などの研究発表会により公立学校等の授業実践の質向上に寄与してきました。しかしながら、少子高齢化、デジタル化、グローバル化などの現在の急速な社会変化を考慮すると、これまで以上に大学と附属学校園の連携が重要となります。

そこで、次世代に必要な子どもの資質・能力を育成する授業や研究について、各附属学校園内の取組に留まらず、大学附属としての特色を生かし校種や教科等を横断的に研究するなど、大学と附属学校園が一体となって、実証研究に取り組み、地域の教育現場に還元します。

目標 3 広域拠点型教員養成系大学としての意義と価値を高めます。

- 戦略
- ⑦ 教科等横断し、協働的に学び合う**次世代型プログラム**を開発するとともに、教育効果を客観的に検証する評価システムを構築し、学生の資質向上や大学の授業改善につなげます。
 - ⑧ IR部門を活用して得られた学内外の客観的なデータに基づき、戦略的な大学運営を行うとともに、教職員が協働して**柔軟な組織運営**を行います。
 - ⑨ 国公立大学と連携協定を締結して、**教職大学院を核としたネットワーク**を構築します。

本学は、広域拠点型の教員養成大学として、地域の教員養成の高度化に資するよう、先導的な取組を推進してきました。2017年度からは教員の養成に加えて、学校教育を支援する人材の養成のための課程を設置し、チーム学校の実現に向けた教育に取り組んでいます。また、学部の教員養成課程と大学院についても、社会のニーズに対応できるよ

う、第3期中期目標期間中に改組しました。一方で、改革に完了はなく、絶えず改善する必要があります。ディプロマ・ポリシーや教職課程の目標に沿った資質・能力が身に付いているかを常に確認し、授業等の改善を通して、学修者目線で教育課程の最適化を図ります。また、質保証の充実のためには本学の現状を分析し、成

果や課題を可視化することが欠かせません。そのためにIR部門を活用し、情報の分析と利活用を適切に行うことでより一層力を発揮できる組織への成長につなげます。広域拠点型の教員養成機能を強化するには、他大学とのネットワーク強化も極めて重要です。迅速かつ丁寧な対話を基に、教職大学院を核とした連携体制を構築します。



未来の教育を共に創る

愛知教育大学が目指す姿

子どもの声が聞こえるキャンパス
地域から頼られる大学

